

大阪・関西万博に子どもたちを招待しないことを求める意見書

「大阪・関西万博」の開幕まで 11 ヶ月となりました。しかし、昨年 11 月の共同通信社の世論調査で、「万博は不要」との回答が 69%にのぼるなど、開催に多くの国民が懸念を抱いています。建設事業費が当初の 1.5～2 倍となりインフラ整備など関連事業費が膨らんでいること、「万博」の最大の狙いが「カジノ推進」や関西財界・大企業による巨大開発にあることなどが明らかになり、いま「中止」を求める声も広がっています。

開催地の夢洲はまだ埋め立て途中で、建設残土などの産業廃棄物や焼却灰、猛毒の PCB 汚染土などを受け入れています。また、夢洲に上陸するには一本のトンネルと 1 本の橋しかなく、一日 20 万人以上もの来場者を受け入れるシャトルバスは渋滞することが予想されています。地盤は軟弱です。南海トラフ大地震など災害時の避難計画もまだなく、避難できない恐れがあります。

こうした中、今年 3 月 28 日、会場となる夢洲 1 区で溶接作業中の火花が地中から漏れ出たメタンガスに引火し爆発する重大な事故が起きました。産業廃棄物と大阪湾の浚渫土砂からは常にメタンガスが発生し、夢洲内には地中のガスを抜くための煙突状の管が 70 本以上も設置されています。今後コンクリートで地表を覆うとしていますが、ガスは発生し続け地中に滞留するので、爆発の危険性は変わりません。万博会場となる夢洲 1 区はもともと立ち入り禁止区域となっていたところです。さらに夢洲 2 区・3 区は、浚渫土砂や建設残土などで埋め立てられているため地盤沈下が進んでおり、地震時の液状化対策も必要です。

「いのち輝く」をテーマに開催される「大阪・関西万博」ですが、「いのち脅かす」事態にもなりかねません。

ところが、こうした危険な万博に「教育旅行(遠足)」と称して、滋賀県は 4 歳から高校生まで約 18 万人を無料招待する計画をすすめています。

観光バス駐車場となる夢洲 1 区は、有害物質 PCB の土嚢一万袋が埋められている区域です。万博開催時にはコンクリート舗装される予定ですが、昼食の場所は駐車場の近くの屋外で粉塵が舞うことが心配されます。駐車場から会場入り口までは約 800m の距離があり、雨天時や熱中症の対策も必要です。各校園は実施日の希望は出しても自ら日程を決められず、見学パビリオンも選べません。入場料は無料ですが、交通費(バスなら 5000 円程度)は保護者負担になります。校外学習では事前の下見で安全対策を講じますが、いつ下見ができるのかもわかりません。災害時の避難計画もない夢洲に児童生徒を連れていくこと自体、危険極まりない行為です。

本来、校外学習は教育的ねらいをもって自主的に計画実行されるべきものです。県主導で一律に「教育旅行(遠足)」として招待・実施することは、教育の自主性の点からも馴染みません。大阪交野市の山本景市長は、「学校単位で連れて行かなくてもいい。」と述べ、子ども動員にくみしない考えを表明しています。

以上のことから危険が想定される「大阪・関西万博」に対し、以下の 3 点を求めます。

1. 危険が想定される「大阪・関西万博」への「教育旅行(遠足)」を、市内各校園の児童生徒に対し強制しないこと。
2. 市内各校園長に「大阪・関西万博」の危険性を伝え、校外学習は各校園の自主性を尊重すること。
3. 滋賀県に対し、子どもたちを危険な「大阪・関西万博」に招待しないよう求めること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和 6 年 月 日

近江八幡市議会議長

滋賀県知事 三日月 大造 宛